

猫山の植物

青山 幹男・高山 信明

猫山は広島県の北東部に位置する海拔1195mの山で、県内では珍しく蛇紋岩でできている。一般に蛇紋岩地域の土壌は塩基性となり、マグネシウム過剰のため肥料不足になりやすいので、このような地域では特異な植物群落が形成されることが知られている。たとえば北海道を南北に走る蛇紋岩地帯にはユウバリソウ、ヒダカソウ、エゾタカネニガナ、ヒダカイワザクラなどの固有の植物を多く産する。

9月22日、猫山の北側から登り始めた。中腹の神社のところまではアカマツ林、スギ植林と続き歩きやすくなっていたが、神社より上はコゴメウツギ、サンショウ、ウリハダカエデ、サルトリイバラ、ミヤマガマズミ、アセビ、ネザサ等の1~2mの株が密生しているため足もとが見えなかった。山頂近くにはブナ、スギ、ミズナラ等の自然林が残っており、それらの根元は冬期の積雪のため下向きに曲っていた。尾根筋にはカシワを主にした低木林が形成されている。雪や風のため樹高が低くなり、高山のハイマツに似た風衝樹形となっていた。ここでは、カシワの他にダンコウバイ、ブナ、ヤマボウシ、



イブキジャコウソウの自生



ネコヤマヒゴタイ

アカマツ、イヌツゲ等も同様に低木となっていた。

山頂から南に伸びる尾根には、ところどころに蛇紋岩の露岩が見られ、ススキ、ネザサ、ショウジョウソゲを主体とした草原が広がっている。この草原の中に点々と咲くネコヤマヒゴタイを見ることができた。うす紫色の小さな頭状花を4~5個つけるネコヤマヒゴタイはその名の通りここで発見された植物で、その後、近畿・中国地方で数ヶ所の産地が見つかるが、きわめて稀な存在である。露岩が出ているところではイブキジャコウソウを見ることができ、県内ではここが唯一の産地である。また、この草原では蛇紋岩土壌のためか矮化した植物を多く見ることができる。ナツトウダイ、ミシマサイコ、バイカイカリソウ、イナカギク、リュウノウギク、ワレモコウ、オミナエシなど株は小さくなっているが、花は正常に咲いていた。その他ここで見られた植物にはヒメユリ、オケラ、リンドウ、ヤマラッキョウ、ウメバチソウ、カワラナデシコ、ママコナ、シオガマギク、チュウゴクコゴメグサなどがある。ただ陽地性の植物や半寄生植物では矮化現象が見られなかった。

帰路は東面へ下ったが、草原からカシワ林、アカマツ林、スギ植林と変化する。登りの北面と異り、風雪の影響は少ないようだった。